

第1回 村上市総合教育会議 議事録（要約）

会議の名称	第1回村上市総合教育会議
開催日時	令和元年8月27日（火）13:30～
開催場所	朝日支所 2階 第1会議室
出席者	<p>【構成員】</p> <p>高橋市長            遠藤教育長            横山教育長職務代理者</p> <p>大滝教育委員    本図教育委員        板垣教育委員</p> <p>【傍聴者・報道関係】</p> <p>なし</p> <p>【事務局】 竹内総務課長            菅原学校教育課長            板垣生涯学習課長</p> <p>平管理主事            船山学校教育課長補佐            園部学校教育課副参事</p> <p>大倉生涯学習課長補佐    長谷部総務課参事</p>
次第	<p>1 開 会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>3 教育長あいさつ</p> <p>4 意見交換</p> <p>① 今後の小・中学校の望ましい教育環境について</p> <p>② 図書館事業の推進について</p> <p>③ その他</p> <p>5 その他</p> <p>次回の会議日程について</p> <p>6 閉 会</p>
1 開 会（進行：総務課長）	
2 市長あいさつ	
3 教育長あいさつ	
4 意見交換 ①今後の小・中学校の望ましい教育環境について	<p>資料 ・今後の小・中学校の望ましい教育環境について</p> <p>・資料1 村上市児童生徒数変移（R1.5.1現在）</p>
総務課長	<p>進行は、村上市総合教育会議設置要綱の第6条の規定により高橋市長が行います。高橋市長よろしくお願いします。</p>
市長	<p>それでは①今後の小・中学校の望ましい教育環境についてご意見をいただきたいと思ひます。事務局、説明お願いします。</p>
学校教育課長	<p>それではお願いします。</p> <p style="text-align: center;">～資料説明～</p>
市長	<p>ありがとうございました。現状と背景を含めて、今後の将来的な考え方を問題提</p>

	<p>起させていただいたわけでありますけれども、今の説明を踏まえて率直な意見をいただければと思います。いかがでしょうか。</p>
教育委員	<p>2学校を取り巻く現状（6）県立学校の在り方も同時に検証について、これは村上市から県に要望事項をあげるというような意味なののでしょうか。</p>
市長	<p>同じく（6）の村上中等教育学校に毎年80人程度入学させるのは妥当なのかどうかといったことは、述べる立場ではないでしょう。</p>
教育長	<p>（6）について、教育委員会として、毎年80人程度の中等教育学校への入学者がある中、中学3年生の減少が将来的に地域の高校再編にもつながってくるのではないかという程度の意味合いで、県への要望ではありません。</p>
市長	<p>これは中々難しい問題ですね。望ましい教育環境と言いつつもそれを実現できていないことに矛盾を感じますが、中等教育学校の入学者数というのは少なからず市に影響があることは事実です。こうした具体例を踏まえた上で議論をしていきたいと思います。他に皆さんからありませんか。</p>
教育委員	<p>特別支援学級の在籍数が増えているということの要因・分析について、また、他の市町村はどうなののでしょうか。</p>
学校教育課長	<p>他の市町村についてはわかりません。ただ、増加傾向にあるのは村上市だけではありません。特別支援学級の在籍数が増えているのは、検査の精度があがり、保護者の理解も得られるようになったことだと思うのですが。</p>
市長	<p>具体的な原因は分かりますか。</p>
教育長	<p>知的障害だけではなく、いわゆる発達障害も、検査ではっきりするようになり、祖父母を含めた親御さんに障害と認識してもらえるようになり、支援学級が、子供たちによりよい学習環境を提供することができる場所であると判断してもらえるようになったのが増加の原因なのではないかと思います。</p>
市長	<p>生来的に発達障害のあった子どもたちが顕在化してきたという影響も少なからずありますが、結果的に特別支援学級をより良い環境にシフトさせることができれば、両方ウィンウィンになっていいことですね。</p>
教育長	<p>そうですね。学級編制の観点だけから、特別支援学級が増えたから困るということはないのです。あくまでもその子にとって適正な学びの場を提供できるようにすることが大切だと考えます。</p>

市長	今まで悪い傾向なのかなと思っていたのですが、良いことなのですね。
教育長	良いことです。ただ、学校にとっては、通常学級の子どもが減れば、学級数に影響が出てくることもありますので、その点は考えなければならないと思います。
市長	教育委員、今のお話からどうでしょうか。
教育委員	良いというのであれば、良いのでしょう。ただ、果たしてそれは本当にそうなのでしょうか。なにかしらひっかかるところがありまして、そこにもし教育の根本的な問題が含まれているとすると、それこそがきちんと考えなくてはいけないことなのかなと思いました。
市長	特別支援学級から通常学級に戻るケースはあるんですか。
教育長	あります。
市長	それは障害がなくなったから戻るというケースでしょうか。
教育長	そういったケースもありますし、1年生、2年生のときは、発達の遅れが若干あったため通常学級に在籍していたけれど、3年生になり、学習の遅れは障害に起因していると判断された場合、特別支援学級に移ることもあります。基本的には、入学時の検査を受けた在籍が何より最優先になります。資料（2）特別支援学級在籍児童生徒数の割合の増加傾向の令和元年度の内訳をご覧ください。小学校1年生が58名、小学校2年生が41名、小学校3年生が37名おります。この子どもたちが中学生になったとき、単純に全部足した数が中学校の特別支援学級在籍の人数になってしまうのです。これだけ児童・生徒数が減少している中で、特別支援学級在籍数が多いということは、なぜだろうと誰しもが思うことだと思います。在籍者数については、今年の9月1日現在で県の教育委員会に報告しなければなりません。来年度の小学校・中学校の特別支援学級在籍も今年度より増える見込みです。ですので、増加傾向は続いております。
市長	認識としては増加するのが悪いという認識を持つ必要はないということでしょうか。
教育長	はい。
市長	というのは、学校そのものの構造を考えなければならないと思います。私自身の感覚がおかしいのかもしれないけれど、どうしても特別支援学級はなんらかの処置をとらなければならないという認識があります。元々、特別支援学級があり、通常学級もあるという仕組みにしてしまえば問題ないのではないのでしょうか。そ

<p>教育長</p>	<p>うしますと、どちらが増えたら困るといった話にはならないのかもしれませんが。</p> <p>そうですね。そういうことで子どもの適正就学を話し合ってはならないのです。あくまでも子どもがどこで学ぶのが大切です。特別支援学級、通級指導教室という場がきちんとありますので、どこの場で学ぶのが適切かということを学校と、親御さんがしっかり判断しなければなりません。インクルーシブ教育も大切ですので、通常学級で学ばせたいという親御さんの願いがある場合は、親御さんの判断が大事にされます。</p>
<p>教育委員</p>	<p>特別支援学級の今のお話で、私が現役のときにありがたかったのは、村上市が大分前から、特別支援の児童のために介助員さんをつけているということです。村上市では、介助員さんの数が他の市町村に比べて多いのです。それだけ予算をつけてやってもらっておりましたので、児童・生徒個々に対して教員と介助員さんで手厚く指導してもらえます。そういう環境がだんだんできつつあり、保護者にもだんだん理解してもらえるようになっていました。1年生になるときは保護者と就学指導で話し合いをするのですが、昔から特別支援というと、別の部屋で指導を受けるようなイメージがあったのですが、今は、「子どもさんのためにできる限りの環境をつくりたいのでご協力お願いします。」とマンツーマンで保護者の方とお話をしますと、「では、特別支援学級でも大丈夫ですね。」という反応をいただけるようになりました。こうしたことから村上市の場合もうまくいって来てるんだなという印象を持っています。望ましい教育環境をどうすればいいのかというテーマについては、介助員を減らさないよう予算措置をしていただきたいと思っています。</p>
<p>市長</p>	<p>他にございませんか。</p>
<p>教育委員</p>	<p>3 これまでの経緯を踏まえてのところなのですが、山北地域については小学校 1 校、中学校 1 校とこれ以上統廃合できない状態まで進んでいますし、元々山北地域に関しては「1 学年 1 学級 20 人以上の通常学級 6 学級以上の規模」を満たしていません。今後、山北地域の児童・生徒数が減少すると朝日地区の学校と統合ということもあるかもしれませんが、そうしますと、通学距離が増え、子どもたちの睡眠時間に影響が出たり、家庭学習の時間に影響したりといった面からかなりマイナスになると思います。小中一貫校についてですが、圓山教育長の在任期間中に、教育委員会で三条市に見学にいき、小中一貫校の説明も受けました。山北地域や岩船地域の学校を小中一貫校にするという提案もありましたが、それも今回の統合では通りませんでした。これからは小規模校の利点を生かした発想をすべきではないかと私は思っています。工藤教育長の在任期間中は、小規模校のメリットを活かすというような方向に話し合いを進めていたと聞いています。村上地区であれば、面積から他の学校との統合も可能かもしれませんが、山北地区は無理だと思いますので、小規模校のメリットをどう生かすのかについて、他の市</p>

	町村を参考にしながら考えていけたらよいと思います。
教育長	小中一貫校の案が今回の統廃合の際に反映されなかったということですか。
教育委員	そうです。統廃合の会議でそのような話がありました。
市長	今回の統廃合の際に小中一貫校の案は提案されましたね。ただ、それに縛られて議論が進まないということがあればいかがかと思います。私自身は、会議でさんぽく北小学校と中学校をワンフロアでやって小中一貫校にすれば、相当なポテンシャルを発揮できるような教育環境を作ることができるのではないかと発言しました。けれども、地元の意向を優先せざるを得ないというのが最終的な結論であったということを教育委員会から聞きました。もちろん、検討会議の時点でベストであればいいけれども、実際は時の流れがあるので、どの時点でベストなのかはわかりませんので、そのあたりを柔軟に対応できればよいと思いました。それは我々の大きな教訓としなければなりません。また、小規模校については、やはり小さな学校は厳しいのではないかという考え方の道筋で今回の統廃合を進めています。検証はしっかりやるべきだとは思いますが、地域環境上適応しないところも当然あります。検証も踏まえて、柔軟な発想が必要だと思います。つまり規模の大小について様々なものもあってよいという議論がこれからの検証に必要なだと思います。
教育委員	3 これまでの経緯を踏まえての小学校の旧市町村単位での統合も可能かというのはどういう意味でしょうか。
市長	先ほどおっしゃったような、山北と朝日、神林と村上の統合についてはありだと思いますが。
教育委員	以前に、年代がある程度上の方にとっては、神林と岩船は近いから統合できるのではないかという話は、住民感情として絶対ありえないと聞きました。
市長	現役のPTA、保護者の方の中には、岩船中学校と神納中学校の統合はありだと言う方もいます。感覚は変わるものだと思います。ですので、こちらがうまくコーディネートしていくことが必要なのだと思います。現に岩船小学校の子どもたちが少なくなっている中で、PTAの保護者の皆さんもこれで維持できるのかと切実に感じています。まずは、現実をみんなでしっかり見て議論すべきだと思います。旧市町村の範囲を越えてというのはそういうことでしょう。
教育長	旧市町村単位間での統合も可能かというのは、当初、「村上市立小・中学校望ましい教育環境整備計画方針」では旧市町村をまたいだ統合はしないとなっていたのですが、これだけ少なくなってきたので、ありとしなければならないのではない

	<p>かという意味合いです。来月か再来月に三条市で小中一貫校の会合があり、そこに村上市教育委員会からも指導主事をオブザーバーとして派遣します。小中一貫校のメリットデメリットについて、相互の学校にどのようなメリットがあるのかというようなことをよく聞いてきてほしいと思います。</p>
教育委員	<p>旧市町村単位という縛りがあることを私は知りませんでした。基本的に統合はどんどんやるべきという思いはありました。例えば、村上高校に特進クラスをつくりそこを目指すとか、その次を目指す場所を小中一貫校と位置付けるということです。</p>
市長	<p>今回の学校統廃合の中で、私たち以上の世代であれば、今まであったものがなくなってしまうということに対してやはり寂しいといった感情はあるでしょう。ですが、今の子どもたちはどう感じるのかという議論は全然なされていないように思います。</p>
市長	<p>統合するときのエリア設定は、スクールバスの時代が当たり前になれば関係ないと思います。山北については遠距離なので、他の地区と事情が違いますが、高速道路ができれば変わると思います。いずれ全てスクールバスになる時代が必ず来ますから、エリア設定を意識しないということも視野に入れてもらえればと思います。</p>
教育委員	<p>ただ、やはり山北地域ばかりなぜ中央に動かなければならないのかという意見があります。その反対も考えてもらいたいです。</p>
市長	<p>それはありえます。三つの拠点校を山北、村上、荒川に作ってもよいわけです。糸魚川市は富山県に大変近いですが、富山大学を中心にして高等教育機関がすぐ近くにある環境です。そのため糸魚川の子どもたちは富山大学に進学したりもしています。同じように、山形県に近い山北を拠点として、生活圏を他県にも広げてしまうという大きな考え方もあると思います。そのような視点を持ちたいものですが、どうしても今我々は内に向かうものとして学校を考えてしまっていますね。</p>
教育委員	<p>望ましい教育環境について第2次検討委員会の設置を考える必要があるとありますが、最初の基本方針の中身がほぼ学校統合の話、つまりハードの部分しかありません。でも、今の話題提供はソフトの部分がかかなり多いですね。令和7・8年を目指して、介助員や教員の数いわゆる市の雇用の強化も含めてソフトの部分を考えていただきたい。また、部活動の指導員の確保が難しいという話もあります。ただ、学校規模をどうするかとか、どこに学校を置くかといった話ではなくて、実際の村上市の子供たちの生活にとってどのような形が望ましいのかということ</p>

<p>市長</p> <p>教育長</p> <p>市長</p>	<p>を含めて方針を出していければ、住民の方々の理解も深まっていくのではないかと思います。なかなかそのような機会もないままに、やると決まってからやっても非常に理解を得難いと思います。ソフトの面の話も入れてもらえればと思うのですが、いかがでしょうか。</p> <p>大賛成です。例えば、部活動について村上市全体から集まってきてひとつのチームとするというような提案を絶対に不可能と否定してほしくはないのです。実現できるかはわかりませんが、そういうこともありだという議論をしっかりとすればいいのだと思います。具体的にやろうとしたときに、学校が終わってどれくらい部活動ができるのか、2時間が無理なら1時間というように全体の意見を集約して無理なら無理とすればよいだけです。これからは働き方改革で教職員も残業ができなくなります。そういったときに、学校経営全体の考え方、教職員の在り方について、民間に委ねるべきところは委ねるというように様々な方策を含めて学校経営を考えていかなければならないと思います。教職員の働き方改革も必要な視点ですね。他にありますか。</p> <p>「村上市立小・中学校望ましい教育環境整備計画方針」は、学校規模が小さくなったから学校統合という一点だけの視点でした。今後は、校舎の大規模改修や長寿命化というのは、これからどこの学校も避けて通れないことです。厳しい財政状況下でもありますので児童生徒数の減少、校舎改修、ソフト面の充実等、複数の視点から、今後の学校配置を考えていかなければならないと思います。</p> <p>それでは、この件に関しては、様々なご意見出ましたので、望ましい教育環境については次の検討会でもお願いします。</p> <p>次に二点目、図書館事業の推進について、事務局からお願いします。</p>
<p>②図書館事業の推進について</p> <p>資料 ・ 図書館事業の推進について</p>	
<p>生涯学習課長</p> <p>市長</p> <p>教育委員</p>	<p>総合教育会議における生涯学習課のテーマについては図書館事業の推進についてとなります。</p> <p style="text-align: center;">～資料説明～</p> <p>私から資料の説明は以上です。</p> <p>はい、ありがとうございました。それではみなさんから自由にご発言いただければと思いますが、いかがでしょうか？</p> <p>移動図書館車は、私の集落にも回ってきておりまして、決まった方がそれなりに利用をしているようには見受けられます。どれくらいの利用があるかはわかりませんが、ぜひとも継続していただきたいと思っております。</p>

市長	移動図書館車はやめることも視野に入れているのですか。
生涯学習課長	移動図書館車は、広範な地域を抱えております村上市としては、大変有用な事業だと思っています。費用対効果という面はありますが。
市長	公共交通事業でも、「空気を乗せている。」といったご意見はあります。ですが、私自身は継続するべきだと思います。さらに、できるならば付加価値をつけたらいいのではないかと思います。生活用品や生鮮食品とか、そういったものを積んで買い物できるようにするショッピングモールのなとこに図書館が入ってくるというイメージです。これができたら買い物困難者・移動困難者等の課題に対しても可能性は出てくると思います。そういったことを視野に入れながら議論すると新たなものがでてくると思うのですが、いかがでしょうか。
教育委員	移動図書館車は、大体 25 年前からスタートしていますよね。当時は広域事務組合でしたので、栗島浦村も山北町も荒川町も同じようなメリットがあるようにということでスタートしました。今は村上市になりましたから移動図書館車の意味合いも違うのだろうという気はします。
市長	広域行政圏ですので、関川村も栗島浦村も連携はしています。図書館も連携はしており、栗島浦村には移動図書館車は年に一回行っているとのこと。定住自立圏構想で二村の図書館サービス含めた行政サービスも中心地が行うということで村上市がやっています。先ほども申し上げましたが、機能として付加価値をつければ面白くなると思いますので、ぜひ知恵を生涯学習課のほうでも振り絞っていただきたいです。生涯学習課ではなくても、買い物困難者等の課題を考えると、自治振興課や地域経済振興課といったところも連携する必要があると思いますね。 また、図書館全体を指定管理制度に移行するということはあるのでしょうか。例えば、図書館流通センターや、ジュンク堂、紀伊国屋とか、蔦屋といったところにやってもらうというのはどうなのでしょう。蔦屋さんはスターバックスがセットになっていますから、図書館の館内にスターバックスを設置して拠点化を図るというのはどうでしょう。現在村上駅前周辺は、街歩きの拠点になってますよね。もし、図書館内にカフェを設置して、インフォメーションを置くといこともできれば新たな図書館の魅力も出てくると思うのですがどうでしょう。
総務課長	蔦屋さんの件については、一度やりましたが撤退しましたね。
市長	指定管理に出すということが可能なかどうかということです。
生涯学習課長	指定管理には出せません。



生涯学習 課長補佐	出せないということはありません。県内で指定管理制度を導入しているのは刈羽村など6自治体です。
市長	刈羽村ですか。
生涯学習 課長補佐	民間業者に相談したこともありますけれど、業者にとっては村上市でやることのメリットが少ないということをお話していました。仮に導入したとしても、業者が撤退したときにノウハウをどう担保すればいいのかというのは考えなければならないと思います。
市長	指定管理ですので撤退ということは心配しなくてよいと思います。公立の施設であることに変わりないので誰が運営するのかということですね。民間の図書館事業をやっている方々のノウハウを現在の図書館に入れて、一段も二段も上の付加価値をつけるような運営ができないかという話をしているわけです。市は、直営での飲食店の経営は制限されていますよね。そういう意味では今ある活力を導入するというのは生き残りを考えたときに必要です。部分的にだけでも取り入れるようなことも考えてみたらいいのではないかと思います。
生涯学習 課長補佐	メリットがあまり感じられません。県内で業務委託を出しているところは多いです。ですが、そこが葛屋さんみたいにやれているかということとそうではないようです。
市長	それは市が直営でやっているところを業務委託としているだけですよね。そうではなくて、民間の力を活用するというのは、先ほどの移動図書館車のように売り物を載せて走るとか、病院に行く人の足に使うとか、そのような発想があってもいいかなということです。ただ、それを市でやろうとすると難しいので民間に任せたいということです。ただ、手を上げる人がいればいいのですが。「公立」という枠に囚われることなく、これからは知恵を出していかないと難しいと思いますので、できることからやっていければいいと思います。
教育委員	私も賛成です。全国的にカフェが設置されている図書館が話題になりましたけど、そこまでいなくても、他の事業とマッチングしていけるようなあり方を考えたほうがいいと思いました。例えば、ギャラリーを作って絵画とかを飾るとかですとか、ホールをつかったコンサートを催して、その関連の本やグッズを置くとか、今まで図書館に来ていなかった人が興味を持つ分野も図書館に呼ぶことによって親しみがわき、別の展開ができるのではないかと思いますので、事業を広めて考えてもいいのかなと思います。
教育委員	クレープの移動販売車でしたか、一緒に本の販売か貸出をやっていまして、すごく好評だったというニュースを少し前に見たことがありました。例えば、いいね

	つか村上とかそういった大きなイベントのレールの上においてもらうというのもありだと思いました。
市長	移動図書館車はそういったイベントにでていくことはあるのですか。
生涯学習課長補佐	イベントに出向いて本の貸し出しをやったことはありましたが、爆発的に喜ばれるということはありませんでした。館内にもイベントと連携したテーマで展示コーナーを設けていますが、利用する人は限られている印象です。
市長	興味を持ってもらえないという振り返りをしたならば、興味を持ってもらうための手立てを講じるべきですね。それが知恵だと思います。あとは継続しなければだめですよ。何がヒットにつながるかわかりませんので。
教育長	平成30年度の移動図書館車の利用実績というのは、前年度とかその前に比べて減っているんですか。生涯学習課としては、もっと増やしたいという願いはあるのですか。
生涯学習課長	微減の状況です。やはり多くの方々に利用していただきたいと思っています。
教育委員	移動図書館車の貸し出しの冊数の目標が9300冊くらいですよ。ですが、かなり減ってますね。頑張らないとこの目標値は達成できませんよ。
市長	ステーション数は一番多いときにどのくらいあったのですか。
生涯学習課長補佐	130くらいです。
教育長	荒川地域には関川村も回っている民間の移動販売車が二台あります。先ほど市長がおっしゃった移動図書館車に物を積むということは容易ではないと思いましたので、民間の業者と契約して、図書館車が巡回する際、ガソリン代だけ負担し、販売車も同行してもらおうといったことはできないものではないでしょうか。
市長	それはいいですね。いっそのこと生涯学習課から所管を外してしまって、市民課とか、自治振興課とか公共交通に持たせるというのも一つの手立てなのではないでしょうか。
総務課長	貸出数を5冊から10冊にすれば確実に数は伸びるのではないのでしょうか。
市長	それはそうですが、それはそもそもの目標値の考え方が違いますよね。
総務課長	なぜ5冊なのでしょう。

生涯学習 課長補佐	貸出期間が2週間と決まっているので、5冊が読みきるのに適当な冊数との考えです。
総務課長	民間企業は営利が目的ですので、利益が出ないところには行かないでしょう。公共事業の付加価値はそこにあるといえます。
市長	試しに1、2箇所やってみてはどうですか。
総務課長	テナントのように民間業者にスペースだけ貸すというのはどうでしょうか。車の中にスペースを貸すだけであれば賃貸借契約だけですので問題ないのではないのでしょうか。
市長	住民の皆さんの生活環境の向上のために色々な知恵を出してやればいいですよね。
教育委員	図書館利用の促進事業について、読み聞かせグループがいくつかありますが、どれくらい活動しているのか、研修等を行っているのかについて教えてください。
生涯学習 課長補佐	中央図書館で活動している団体は3団体です。
教育委員	市内全体ではどうですか。
生涯学習 課長補佐	把握しているのは7つの団体です。生涯学習課の社会教育推進室で読み聞かせのボランティア養成講座を実施しています。
教育委員	研修をもっとしてもらったほうが促進につながると思います。先生方の時間のない昼休みなどに来てもらうと子供たちも喜んで、学校も助かっているようです。ただ、後継者がいないということで、若い人にもやってもらえるように、養成事業を行ってほしいと思います。
教育長	皆さんスキルの向上を求めていますね。読み聞かせはできるけどブックトークはできないので教えてもらいたいという人もいます。
教育委員	そういった研修自体やっていることを知らない人もいるようです。ぜひとも宣伝をお願いしたいと思います。また、最近「読書通帳」というものが大変流行っています。銀行の通帳と同じ形で、自分の名前が書いてある通帳を図書館のATMのような機械に入れると、自分が借りた本の情報が印字される。自分が読んだ本の情報が貯まっていくとそれが面白くて喜ぶますよね。滋賀銀行がATM、打ち出し器を寄附したというニュースも聞きました。新発田市もやっているようですが、

	<p>手書きなのであまり人気はないようです。ともかくそういうものが中央図書館に一台でもあればいいのではないかと思います。デメリットとしては個人情報なので、本人以外にも使えるのかどうか気になります。</p>
教育委員	<p>今は司書のほとんどが臨時職員のようなのですが、司書は足りない状況なんではないでしょうか。また、村上地区は生涯学習センターに学習スペースがありますが、山北図書室には学習スペースがありません。カフェや図書館で勉強をすると、周りがアウェーなので非常に学習効果があがるといわれているそうです。</p>
教育委員	<p>神林には机がひとつありますけれど、夏休みはそこに高校生とかが来ていますよね。狭いところですがそこが落ち着くようです。</p>
教育長	<p>荒川地区公民館にもありますけど、若い方だけでなくお年寄りの方も利用しているようです。</p>
市長	<p>ほかにございませんか？</p>
教育委員	<p>資料の3の(3)資料の保存についてのところで、資料の保存場所が不足しているというお話があるんですが、学校統合後、廃校になる場所を縄文の里のような資料を展示する場所にしたり、図書館の資料を保存したり、複合的な活用ができると思います。あるいは展示コーナーや、コミュニティスペースといった活用の仕方もいいと思います。</p>
市長	<p>現在、図書の蔵書が大体16万冊ほどあるとのことですが、例えば分館を作って、芸術・伝統等のジャンルをまとめてそこに移動とするのはどうでしょうか。分館に行けばそのジャンルはすべてそろえるようなこともいいかもしれませんね。これからは調度品も含めて増えていく一方です。縄文の里に収まりきれない貴重なものが今様々な場所にあるとも聞いています。こういったものを一つの場所に集めて展示すれば、交流人口も増えますよね。ぜひ検討事項に加えていただきたいです。</p>
教育長	<p>山元遺跡の展示もほとんど見る機会はないですね。国の史跡ですし、廃校になった神納東小学校のスペースを利用して展示できないかということは話し合っています。</p>
市長	<p>場所にこだわる必要はないと思いますので、柔軟に考えていただきたい。それでは、図書館事業の推進については以上でございしますが、続いて、その他何かございしますか。</p>

③その他	
市長	私のほうから一つ。今までの総合教育会議で回数を重ねていろんなご提案をいただいたりしましたが、まだ実現してないものもあります。そこで、これまでの内容の経過を踏まえて整理をして検証する機会を一回設けていただいて、忌憚のないご意見をいただきたいと思いますのでどうぞよろしくお願いします。また、総合教育会議ももう一回開催できたらと考えています。私からは以上です。皆さんからはございませんか。
教育委員	教育とは関係がありませんが、先般の教育委員会連合会総会の情報交換の中で、村上市はいいところがたくさんあるのにもったいない、もっとPRしなくてはならないということを言われました。情報発信をもっとしてほしいと思います。
市長	貴重なご意見ありがとうございました。どんどんやっていきたいです。それでは、なければよろしいでしょうか。ありがとうございました。
5 その他 次回の会議日程について	
総務課長	次回の会議日程ですが、現在の予定では1月あたりを考えていますが、状況を見て市長と教育長と相談していただいて改めてご案内させていただくということでご了承ください。大変ありがとうございました。
6 閉会	